

取り戻そうとする女性同士が、済州島4・3事件を生き延びた母

親の知られざる情熱をたどり、再生に向かう愛の物語。

『別れを告げない』

ハンガン // 著 斎藤 真理子 // 訳 (929.1 ハ)

旬の本棚 - 2025年 3月号 -



受賞作品 第76回読売文学賞 第27回大藪春彦賞 2021年、名もなきコードがブッダを名乗った。コピーと廃棄を アイヌの壮年・シラウキが助けた少女は、蠣崎氏の娘・稲姫 小説賞 繰り返される存在として虐げられてきた人工知能たちは、その だった。礼として居城に招かれたことが戦の思わぬ発端となっ 『円かなる大地』 『コード・ブッダ』 教えにすがりはじめた。はたして、機械に救いはもたらされる てしまう。和睦の条件は「15日以内に仲介人となる安東氏を のか? 出羽国から連れ帰る」という困難なもので…。 武川佑//著(Fタケ) 円城 塔 // 著(F エン) 研究•翻訳賞 私の経験したことのすべてが結晶になる一。いま生きる力を

ドラマ化作品			
『花のれん 改版』	米屋の次女として生まれた多加。呉服屋の吉三郎の元へ嫁ぐが、吉三郎は女遊びを繰り返して多額の借金をした上、店を潰してしまう。その後二人は寄席を買い取り天満亭と名付けた。寄席は次第に人気を得るが…。	『まぐだら屋のマリア』	料理人になる夢が破れた紫紋は、小さな村の定食屋「まぐだら屋」に流れ着いた。左手の薬指がない、マリアと呼ばれる女性に出会い、謎めいた彼女に惹かれていく紫紋だったが…。
山崎 豊子∥著(BF ヤマ)		原田マハ∥著(F ハラ)	
『天城越え』(「炒太清張仝隹 イ」前収)	「私」は16歳の時、初めて天城を越えた。道中、一人の大男を見かけた後に一人の女と出会う。以来会うことはなかったが、三十年後、私が警察資料を見ていると天城越えをした日の様子が書かれていて…。		
		. ,	

中国化作品				
35年目のラブレター		少年と犬	宝体のために初まに手も込めた用が拾った者 宝し油に	
田海: 美福亭鶴瓶, 原田和田 はか 『35年目のラブレター』	│ 読み書きができないまま社会に出た西畑保さん。劣等感を │抱きながらも手に職をつけ、結婚して子育てをし、そして還暦 │を過ぎて夜間中学で学び始めた。愛する妻にラブレターを書く │ために-。		家族のために犯罪に手を染めた男が拾った犬。守り神になったその犬はある意志を秘めていた-。人生の無常と犬の神秘性を描いた全6編を収録。	
小倉 孝保 // 著 (289. 1 二)	7200712 8	馳 星周 // 著(F ハセ)		
早乙女カナコの場合は		光る川		
	早稲田大学に通う女学生、略して「早稲女」。面倒臭くて 痛々しいけど憎めない早稲女・早乙女香夏子と、5人の女子		長良川で過ごした弾けるような真夏の日々。驚嘆と興奮に 満ちた少年世界に、ふと影を落とす大人たちの痴情と情交。	
	の等身大の物語。それぞれが抱える葛藤と恋を描く。		おおどかな岐阜弁を駆使して輝ける時代を描く少年小説。	
柚木 麻子 // 著(F ユズ)		松田 悠八 // 著 (F マツ)		
悪い夏				

















